

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム・椋内

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・椋内		
所在地	岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390200202-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390200202-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 29 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、「ひとりの心を見つめるケア」を方針とし、入居者様ひとりひとりの個性や生活を尊重する支援を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム・椋内は、開設が平成26年2月で一周年を迎えている。宮古市北方国道45号線沿い椋内から2キロ海側に入った高台から田老湾が一望できる風光明媚な場所に位置している。周辺には仮設住宅や社会福祉法人の障害者授産施設が隣接しており、周辺環境は閑静で松林並木路が別荘地的な雰囲気を醸し出している。ケア方針として、利用者に本音を語ってもらうことが重要と考えそのためには、「まず、自分自身を利用者にしっかり知ってもらう」ことが大切という姿勢で取り組み、日常会話を多く持つよう努めている。それを基に利用者一人ひとりの思いをしっかり捉え、職員はその人その人に応じた暮らしのケア支援に努めている。このように普段から支援の在り方を職員間で話し合い、利用者が望んでいる暮らしは何かを考えながら取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりの心を見つめるケア」を理念に9名の入居者の個々に合わせた対応をしている。	この理念は開設時に法人の代表者がケアに求める姿勢を示したもので、利用者一人ひとりの思い(心)をしっかり捉え、職員はその人その人に応じた実践(ケアする心・力)を持ち備えて、日々の暮らしの充実を支援することとしている。月1回の職員会議やミーティング時に理念の意図を話し合い共有を図っている。	理念を意識し実践に繋げるために、事業所内に貼り出し事業所の姿勢を開示すると共に利用者・家族の理解や協力また、地域にも広く周知されるような機会づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	国道沿いにある花壇の整理などの地域行事に参加し、交流している。	近隣に仮設住宅があり、仮設集会所に出向き曜日毎に展示される作品展見学交流や、地域の清掃作業・花壇整備作業交流等の他にも、近くの個人の家に訪問し、お庭の花を觀賞したり各ボランティア団体との訪問交流など行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くに仮設住宅等があり、集会所を通して日頃の介護のことや相談などが有る場合には、遠慮なくホームに来てもらうよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方々、入居者ご家族、行政の担当の方を交えて、日頃の外部からの視点や意見を伺い、また事業所からの要望も細かく出し合っている。	運営推進会議には、民生委員や駐在所、消防署、町内会、家族、行政のほか、スタッフも参加し意見交換している。委員から地域の行事情報や防火対策、高齢者の事故防止、認知症の方の搜索支援、クマ出没情報等といった様々の情報提供があり運営に活かしている。	家族が参加できる日に開催調整したり、また、情報交換も活発に行なわれているが、この会議が安定的、効果的に運営するために、改めて事業所の役割や機能、更には会議の目的等の理解を頂き、この会議が地域にとっても大切な話し合いの場として注目されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議や事業所でわからないことがあれば、すぐに連絡を取り関係を築いている。	ノロウイルス予防対策などで対応方法が分からない時、直ちに相談し適切なアドバイスを受けるなどしている。このほかでも沿岸北ブロック会議や運営推進会議等の機会を通じて情報交換したり、生活保護手続きなどで指導を受けながら適切な対応を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束において、職員の認識とスキルアップを外部研修や月に1回の会議で検討するようにしている。	身体拘束をしないを宣言をしている。日常利用者との関りの中で、疑問に思ふ事をミーティングで話題にしたり、言葉の拘束等も研修で話合うほか、また方言を利用する場合も言葉遣いについてお互いに注意し合いながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本となる虐待の認識や入居者の個々の不快に対して常に事前に考慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での事例や情報をもとに、成年後見人制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居して頂く前に何度か面談や相談をし、ご本人や関わるご家族にできるだけ安心感を持ってもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の趣味や好きな食事を教えていただきながら、日常生活をより楽しく過ごしていただけるよう努力している。	利用者から食事の味付けへの注文や、利用者個々の食材の好き嫌い、外出の際の衣服の好み・着合わせなどで出された意見等に対して見直しや改善に努め、利用者・家族の納得のいく支援としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は、細かく聞き取るようにしており、常に代表者は話しやすいよう努力している。	職員会議やミーティングの機会に意見要望を聴いている。例えば、非常口に鳴り物を吊すことで無断外出者の見守りに役立てたり、利用者の畑仕事の希望に応ずるための菜園づくりの土搬入、勤務シフトの改善など、速やかに取上げ改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査は、代表者の視点のみならず、日頃の職員とのコミュニケーションからも職場の様子を把握するよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、常にスーパーバイザーとしての姿勢を心がけているとともに、職員同士の馴れ合いまでいかない交流を大事にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流やイベント(運動会など)の招待を受けながら、情報交換をすよう心がけている。 協会の会議の場としても、ホームを使用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、環境に慣れて安心できるまで、各職員が関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで常に要望等がないか、こちら側から聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の身体状況、生活環境等を把握しそれに伴ったプランを立てて実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にホール内の掃除を行ったり、野菜を植えたり、草取りをしったりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらしたときには、ホームでの様子を報告したり、必要な物などを用意してもらっている。面会等で、ご本人も安心して喜んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親類の写真を居室に飾ったり、漁師だった入居者には、海へドライブへ出かけたりしている。	孫やひ孫、お嫁さん等が来訪しお話しをしたり、本人の希望で趣味の川釣りに行ったりしている。買い物ではツルハやホームマック、百円均一店など様々な店にでかけ、少し遠出となるが山田町のスーパーまで行き、買い物を楽しんだり、新たな馴染みを作っている。家族と連携し正月には自宅宿泊し思い出を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子の観察を行い、気の合う入居者同士の席の配置を行い、支えあいながら過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者を介して、社会やご家族との交流を図り、相談があった時には、快く対応するよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者の言葉の意味を考え、行動の理由を多方面に考慮するように心がけている。	利用者の本音を語ってもらうためには、一緒に草取りなどをしながら、“まず、自分(職員)自身を利用者にしっかり知ってもらう”ことが大切という姿勢で取り組んでいる。日常会話も多く持つよう努めており、打ち解けた機会を捉え、話された意図の本音を考えて計画づくりに反映して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々の特徴に合わせ、一人ひとりにあったケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズム、習慣を把握しニーズに対応できるよう予見できるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画とともに日々変化する入居者の状態を職員全員が把握できるよう、日誌やコミュニケーションにより対応している。	利用者担当を決め、担当者が中心となり日常の観察や経過記録を基にケア会議にて検討し、家族とも話し合いのうえ介護計画を作成している。モニタリングは毎月行いケア会議にて情報を共有しながら介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者による日々の記録のほか、日誌による微細な情報の記録・伝達に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者の習慣・体調等9名それぞれに合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物へ出かけ、カートを押したり、食べたい食材を選んで頂き楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が必要な場合には、ご家族と連絡を取り合い、対応してもらう。その場合も、通院結果の報告をお願いしている。職員の付添いの場合、結果をこちらから報告する。	入居前から利用していた医療機関をかかりつけ医としている。医療受診の付添いは基本的に家族にお願いし、家族対応が困難の時は職員が同行している。受診結果については、家族から報告を受け、また家族に報告し、お互い安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約の予定である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院になった場合には、ご家族とドクターを交え話し合い、退院後も安心して過ごせるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況が悪化した場合、かかりつけ医と連携し、ご家族と話し合った上でできるだけご本人とご家族の要望に応えられるよう努力している。	看取りを必要とする方もおり、家族の希望にもよるが、できるだけご本人・ご家族の要望に応えられるようにするため、看取り指針の策定や訪問看護ステーションとの契約、職員研修などについて、現在、準備中で対応可能な体制にもって行きたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、職員が悩まず瞬時に指示をもらい対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行い、緊急時に対応できるよう努めている。	夜間を想定しての避難訓練を消防署立会いで実施している。その際、非常口に物を置かないこと等の改善指導を受け即改善している。スプリンクラーや通報装置は整備されている他、災害備蓄品も整備されている。地域住民からの支援協力体制の整備はこれからとしている。	夜間の職員勤務体制は少ないことから、普段からの防災対策のほか、地域の支援・協力が重要である。隣接する他の事業所の協力を得る他、運営推進会議で地域の協力の方策について話合うことも一考である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の観察、職員同士の情報交換により、個々にあった言葉かけや対応をしている。	「自分が言われたら嫌になる気持ち」を、「利用者に置き換えて考えてみる」気持ちが大切という姿勢のもとで取り組んでいる。トイレ誘導時のさり気ない声掛けや、居室に入室時のノックなど、ミーティング時に話し合い共有に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に耳を傾け、職員と共に考え自分のしたいことを表現してもらえるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のそれぞれのペースに合わせ本人ができる範囲まで見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着ている服を褒めあったり、2ヶ月に1回床屋さんに訪問してもらい散髪できる。整髪料を希望される入居者には購入しに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を刻んだり、茶碗を拭いたり、テーブルを片づけたりなど進んでお手伝いをしてもらっている。	献立は、利用者の意見や希望を取り入れ、買物も利用者と一緒に出掛け、食材を自分達で買う機会づくりを大切にしている。食事準備では、利用者のその時の気分を尊重しながら茶碗拭きやテーブル拭き等の役割をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者がいつでも水分確保ができるように、常にポットに麦茶を作りおいている。食事は毎日個々の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前に口腔体操をしている。 歯ブラシは、義歯用と舌用も用意している。 また、週に1回は入居者の口腔チェックを行いみがき残しをきれいになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は、リハビリパンツ使用者が数名であり、排泄の際には羞恥心を考慮しながら介助を行っている。また、時間でのトイレ誘導も必要な入居者には行っている。	現在、オムツ使用者はいない。トイレ誘導の方が3人ほどいるが、他の利用者は自分の意思でトイレ行き自立している方が多く、排泄の自立に向けた支援が活かされている。夜間のポータブルトイレ使用も無い。利用者の表情が自然と明るい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況をチェックし、便秘時には運動や食事、水分補給で排便を促す努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望(お湯の温度、一番風呂の好きな方など)を把握し、楽しく入浴できるよう支援している。時間帯も基本は午前だが、できるだけ希望に沿うようにしている。	入浴は週3回、9時から12時の間の個浴で対応しているほか、希望者には何時でも対応している。入浴時は利用者との会話を大切にし、懐かしい話や気に掛っている話になると気持ちが解れ話が弾み、気分転換が図れる楽しい場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にベッドを設けており、好きな時間に休んで頂けるよう対応している。自分が使っていた布団を用意し、安心してもらえるよう配慮している。定期的によりネン交換を行い清潔保持に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員が管理しており、服用時にはご本人が飲み終えるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜等を育て、収穫時期には収穫したものをいただいで楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する方は、職員付添いの元で買い物やドライブに出かけている。また、地域の方の自宅の花壇等も見学させていただいたりしている。	日常はホーム周辺を散歩し健康保持や気分転換を図っている。四季折々の花見等を堪能するドライブや、百円均一店を訪問したり、少し遠いが山田のスーパーへの買い物に行ったり、自宅周辺巡りのミニドライブ、近隣住民宅のバラ見物などといった外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預かりしたお小遣いを使って買い物をしている。お金を所持したい方は、できるだけ希望に沿った形で所持して頂くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をしたいときには、ご家族の了解のもと電話をしている。ご家族には、毎月のご様子を手紙にて報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは、1日2回以上掃除をしている。ホール内には温度計・湿度計を設置し快適な温度を保つように気を付けている。	居間兼食堂には大黒柱が象徴として鎮座し、それを中心に居室や台所、和室が配置されている。全館セントラルヒーティングで、建物は一部二階造りで、天井の天窓から青空が望められ、窓からは田老湾が一望できる。利用者はビデオで歌謡曲を好きな場所で楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつやソファがあり、足を伸ばしながら過ごすスペースがある。気の合った入居者同士で会話やおやつを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとタンスがありご家族との写真やお土産などを飾っている。自宅で使用していた椅子や座布団などを持ってきてもらい工夫している。	ベットや小箆筒、クローゼットは備品として整備されている。利用者の思いでの壁飾りや置物などの他、衣装ケースや使い慣れた寝具などを持ち込み居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者自身でできることは、見守り。介助が必要な場合には、ご本人にあったケアを提供できるよう心がけている。		